

登場人物

寺多さん（61歳） 杉木さん（32歳）

紋白町を元気にしようと立ち上がった寺多さん。まずは自分ひとりでもと、夜回りをはじめて一ヶ月。杉木さんや妻のトモ子さんと夜の町内を拍子木たたきながら歩いていると、

寺多さん、いつもご苦労様です。実は私は朝の登校時間に、子どもたちの見守りをしているんですが、寺多さんも協力してくれませんか。と声をかけられた。

寺多：もちろん、喜んで。

と答える寺多さん。うつむく杉木さん、トモ子さん。

子ども見守りの会のメンバーとも仲良くなってきた頃、会のこれからの活動を話し合う席で、寺多さんがこれまで思ってきたことをメンバーに話すと、意外にも賛同する声が多く、では私たちの会が呼びかけ人になって、紋白町を元気にしようということになった。

会長：では、寺多さんに発起人代表になっていただき、まず私たち以外の町内の団体に声をかけて話し合いからはじめましょうか。それでいいですか。寺多さん。では、話し合いのテーマを考えて下さいね、

寺：（驚）はい。

元気に引き受けたものの、何から話し合いをしたらいいのか、町を元気にするとはいったいどういうことなのか、考えれば考えるほどわからなくなってきた。そんなときに思い出したのは、またあの人だった。

皆出：寺多さん久しぶりですね。うまくいっていますか

寺：先生！わたしはあの時話し合いをすればうまくいくと漠然と思っていたのですが、何を話し合えばいいのかよくわからんです。

皆：町を元気にするキーワードの二つ目はRです。再発見とか再利用、再生とかを意味する言葉です。寺多さんの話し合いのときは、もちろん皆が自由に自分の意見を言えばいいのですが、話し合いの結果をどのように絵にするのか、目標が大事です。ただ目標といっても、市役所に再開発してもらおうとか、大河ドラマに取り上げてもらおうとか、他人任せの目標では誰も共感しません。よく言われる言葉ですが、ないものねだりよりあるもの探しが大事です。紋白町のだめなところではなく、いいところを探してみてはどうですか。

寺：それや！先生ありがとう。

またしても、皆出さんの次の言葉も聴かず、駆け出していく寺多さんだった。

杉木君が連れてきたフットサルのメンバーも含めて20人近くが集まった。

子ども見守り会の南川紀子会長が趣旨を説明し、寺多さんが話し合いの議長を勤めることになった。寺多さんは、町を元気にしようといろんな人に声をかけたが失敗したこと、それでまず自分からと夜回りをひとりではじめたこと、南川会長に優しく声をかけていただき、ようやくこうして話し合いの場がもてたことに感謝していると語ると大きな拍手が起こった。寺多さんには大きな勇気を与える拍手だった。

話し合いは、皆出さんに教えられたとおり、紋白町を元気にするあるもの探しがテーマになった。

角の郵便局長は、浮世絵のコレクターだとか

菊池酒店は江戸時代から続いているとか

ケーキ屋のおじいちゃんは手品ができるとか

奥野のうどんは大盛で有名らしいといった楽しい話題が続く中で、見守り会の南川会長が  
会長：そういえば、朝早くから紋白町内のお地蔵様をお参りしている人が多いよ

A：確かにひとつの町内に7箇所もお地蔵様が祭られているのは珍しいかもしれない

B：南方病院の裏のお地蔵様は、病気に効くとかで遠くからこられるで。

C：うちの店のお客さんは地図がないのって聞いてたな

D：そんなに有名ならもっと知ってもらおう

ということになった。

寺：では、紋白町七地蔵として、地図づくりとお地蔵様めぐりというイベントをしましょうか。(賛成の声)

